

タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4603		
科目名	ゼミナールⅢ		
担当教員	金 恵京,大八木 時広		
対象学年	4年	開講学期	前期
曜日・時限	金 5		
講義室	1202	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E 〔学識・専門技能〕 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP5-J 〔創造的挑戦力・達成力〕 コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとするとともに、既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結び付けることができる。 DP6-K 〔表現力・対話力〕 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 DP7-L 〔協働力・牽引力〕 集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 DP8-M 〔省察力〕 知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E1 学識・専門技能(20%) F1 探求と論拠(10%) J2 創造的思考(20%) K2 オーラル・コミュニケーション(20%) L1 チームワーク(10%) M1 統合的・応用的学修(20%)		
教員の実務経験	特になし		
成績ターゲット区分	■ 能力開発の目標ステージとの対応 3発展期～4定着期		
科目概要・キーワード	テロは国際的な広がりを見せているが、それに対処するためには国際法とその地域の国内法との連携が問われる。そこで、本授業では、東アジアにおけるテロを研究対象にして、各自が法律を軸としながら国際関係論、安全保障論、政治学などの知見を踏まえ発表を行っていく。 また、国際テロを考える際には、一方向からの視点に止まらず複眼的に捉えることで実態が明確になると考え、この授業ではディベート形式も取り入れつつ、理解の深化を目指す。発表者と参加生徒の対話に重点を置いた発表からは、各自の視野の拡大も促される。この方法をとる利点は、質問内容のすべてを予測できないことから、発表者はより一層幅広い知識の習得が求められる点にある。そして、質疑応答を重視する方針によって、参加生徒も予習内容を自らの言葉で論理的に表現しなければならず、知識を運用する力も身につけることができる。これはテロと法の位置づけの全体像を捉えようとする本授業の意図とも合致する。 授業形態は（講義・実技・実習・演習）形式により行います。なお、対応するコンピテン		

	に基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 (キーワード) 無差別テロ・国際法・東アジア								
授業の趣旨	■副題 東アジアにおけるテロリズムと国際法 ■授業の目的 この授業では、東アジアにおけるテロを対象として、それに対して法が果たす役割を検証することを目的としています。分析の軸は法律ですが、政治性が必須要件であるテロを扱う以上、その理解のためには社会、歴史、政治、文化等の要素を踏まえなければなりません。例えば朝鮮半島のテロであれば、太平洋を挟んだ国際関係の知識が不可欠となります。つまり、テロと法の連関を捉えることは、社会における法の位置づけを再認識する機会でもあるのです。 ■授業のポイント 本授業では「国際的な事項に対する自由なまなざし」「基本的な歴史・国際情勢の知識」「社会問題に対する関心」の向上を目指しています。そして、学修者が卒業後も本ゼミナールでの経験を生かせるように、担当教員および学修者間で活発な議論を行い、発想を言語化できる能力の進展を特性としています。								
総合到達目標	【一般目標】 ・テロや政治的事象に対して、複眼的に検証を加えられるようになること。 ・専門性の高い知識を深めると共に、論理的な思考を身につけること。 【個別行動目標】 ・自らの考えを学術的枠組みの中で表現することができる。 ・近年の研究動向や国際情勢を踏まえたプレゼンテーションができる。								
成績評価方法	■(適用ルーブリック割合) E1-20%、J2-20%、K2-20%、L1-20%、M1-20% ■授業参加度(50%) 適用ルーブリック：E1,L1 研究発表(30%) 適用ルーブリック：K2,M1 質疑応答での発言(20%) 適用ルーブリック：J2 (評価基準) 発表に際しては、「論理構成は適切か」「プレゼンテーションや論文執筆における基本的なルールが守られているか」「グローバル化した現代に則した複眼的視野を有しているか」との点を重点的に評価します。 (フィードバック方法) 研究発表に際して講評を行うので、指摘した部分を自分で咀嚼し、参考とすること。								
履修条件	国際法あるいは国際関係学を学びたいとの意欲があり、そうした学問領域を生かしたキャリア形成を念頭に置いていることを条件とする。								
履修上の注意点	学修者間の議論を重視する授業、およびテロをはじめとする国際情勢を扱う特性上、授業に際しては十分な予習が必要となります。また、現代的なテーマを扱うことから、常に世界の動向を追うことを求めます。								
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ①授業テーマ 活動報告 ②授業概要 春季休暇中、どのような研究成果や発見があったのかを各自が発表する。(L1、K2) ③予習 (120分)休暇中に行った研究上の進展について、卒業論文との関連を意識しながら発表できるように整理する。 ④復習 (120分)教員および他の学修者からの指摘を踏まえて、卒業論文作成に向けた年間計画を確立する。 </td></tr> <tr> <td>2</td><td> ①授業テーマ 演習 ②授業概要 卒業論文作成に向けて、各自が研究発表を行う。(E1、J2、K2、M1) ③予習 (120分)発表テーマに関する情報や概念を検討し、関連書・論文を読んでもらう。 ④復習 (120分)質疑応答の際に関心の深まった部分を自ら調べ、検討を加える。 </td></tr> <tr> <td>3</td><td> ①授業テーマ 演習 ②授業概要 卒業論文作成に向けて、各自が研究発表を行う。(E1、J2、K2、M1) ③予習 (120分)発表テーマに関する情報や概念を検討し、関連書・論文を読んでもらう。 ④復習 (120分)質疑応答の際に関心の深まった部分を自ら調べ、検討を加える。 </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ 活動報告 ②授業概要 春季休暇中、どのような研究成果や発見があったのかを各自が発表する。(L1、K2) ③予習 (120分)休暇中に行った研究上の進展について、卒業論文との関連を意識しながら発表できるように整理する。 ④復習 (120分)教員および他の学修者からの指摘を踏まえて、卒業論文作成に向けた年間計画を確立する。	2	①授業テーマ 演習 ②授業概要 卒業論文作成に向けて、各自が研究発表を行う。(E1、J2、K2、M1) ③予習 (120分)発表テーマに関する情報や概念を検討し、関連書・論文を読んでもらう。 ④復習 (120分)質疑応答の際に関心の深まった部分を自ら調べ、検討を加える。	3	①授業テーマ 演習 ②授業概要 卒業論文作成に向けて、各自が研究発表を行う。(E1、J2、K2、M1) ③予習 (120分)発表テーマに関する情報や概念を検討し、関連書・論文を読んでもらう。 ④復習 (120分)質疑応答の際に関心の深まった部分を自ら調べ、検討を加える。
回	内容								
1	①授業テーマ 活動報告 ②授業概要 春季休暇中、どのような研究成果や発見があったのかを各自が発表する。(L1、K2) ③予習 (120分)休暇中に行った研究上の進展について、卒業論文との関連を意識しながら発表できるように整理する。 ④復習 (120分)教員および他の学修者からの指摘を踏まえて、卒業論文作成に向けた年間計画を確立する。								
2	①授業テーマ 演習 ②授業概要 卒業論文作成に向けて、各自が研究発表を行う。(E1、J2、K2、M1) ③予習 (120分)発表テーマに関する情報や概念を検討し、関連書・論文を読んでもらう。 ④復習 (120分)質疑応答の際に関心の深まった部分を自ら調べ、検討を加える。								
3	①授業テーマ 演習 ②授業概要 卒業論文作成に向けて、各自が研究発表を行う。(E1、J2、K2、M1) ③予習 (120分)発表テーマに関する情報や概念を検討し、関連書・論文を読んでもらう。 ④復習 (120分)質疑応答の際に関心の深まった部分を自ら調べ、検討を加える。								

[illegible]

	る。 ④復習 (120分)質疑応答の際に関心の深まった部分を自ら調べ、検討を加える。
関連科目	演習系科目としては、危機管理基礎演習 I (RMGT 2601)、ゼミナール I ～IV(RMGT 4601～4604)と関連する。
教科書	特に定めない。
参考書・参考URL	特に定めない。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 木曜日 3時限(13：00～14：30) それ以外の時間については、メール等で事前にアポイントメントをとることにより研究室で対応します。
研究比率	法学-60%、危機管理学-40%

